

子どもと保護者と教職員とともに考える！



人権フォーラム新聞



令和5年11月2日発行第10号

2年生では、10月3日（火）に徳島県立障がい者交流プラザに行き、施設の様子を直接見学し、視覚障がいについての考えを深めました。施設利用者の方からお話をお聞きし、その後はアイマスク体験・点字体験をしました。目の不自由な施設利用者の方との交流会では、暗記している芥川龍之介の『くもの糸』の読み聞かせをしていただき、その後、自身の体験をもとにしたお話をうかがいました。質疑応答では、ある日電気の灯りが消えるように視力を失ったこと、ヘルパーさんの力を借りて外出できることなどを話してくれました。交流会の後の、アイマスク体験では介助者の役と両方の立場で施設内の廊下を歩いて目的地まで移動しました。点字体験では書く面と読む面が逆になっていることを教えていただき、自分の名前や文の書き方について知識を深めることができました。

また、10月5日（木）は徳島県立防災センターで地震体験、消火体験、煙体験などをし、2年生が学校防災及び地域防災のリーダーとなれるように防災学習を進めています。

今回は校外学習の後に2年生が書いた感想を各家庭に持ち帰り、それを読んだ保護者の皆さまの感想と生徒の感想を掲載して、子どもと保護者と教職員で考える機会にしたいと思います。

生徒の感想より

★障がい者交流プラザに行って、視覚に障がいのある方の話をお聞きすることができました。「外出が自由にできないのが一番不便です。」と話してくれました。確かに自由に外出できないのはとても困るし精神的にも肉体的にも、とても辛いと思います。「困っている人がいたら、是非助けてあげてください。」とも話してくれました。これからは自分の目を大切にするとともに、困っている人がいたら助けようと思います。

★一番心に残っているのは、アイマスク体験です。アイマスクをすると急に怖くなって、歩き出すと周りの物に当たりそうでした。また、点字体験はとても難しく紙に穴があいてしまいました。これらの体験で障がいのある人の苦勞が、そして不自由さが少しだけですが、わかったような気がします。もしそのような人がいたら手助けをしたいと思いました。

★防災センターに行っははじめに津波の映像を見て、その後たくさんの経験をしました。煙体験では、ハンカチを口に当てていたけど煙をたくさん吸ってしまいました。姿勢を低くすることが大切だと思いました。煙を吸わずに移動するのはほんとうに、難しいとわかりました。消火体験では消火器の正しい使い方を覚えることができて良かったです。この体験を活かして地域防災訓練で中心となって活動していきたいです。

★一番心に残ったのは震度7の地震の揺れを体験したことです。あれほど強い揺れは初めてだったので少し怖かったです。

保護者の皆さまの感想より

★子どもの周りには、視覚障がいの方がいないので、今回の体験がとても貴重であったと感じます。一口に障がいといってもいろいろな状態、状況があるので、じっくり学べて良かったです。感想を読んで私も勉強になりました。

★目が見えなくなった人の話を聞き、目が見えない不自由さを実体験することができて、とても良い学習になったと思います。

★普段あまり学校のことを話してくれない息子が、「点字ってすごい」と言って、実際の点字で何と書いてあるか教えてくれました。

★アイマスク体験、点字体験を身をもって体験することにより、視覚に障がいのある人の苦勞がよく理解でき、そのような人たちに寄り添って、優しく接することができるように育ってほしいです。

★どちらの体験もこれから生きていく上で、とても大切な経験ですね。体験できたことをこれからどう生かしていくかだと思います。体験だけでなく、自分がどうすれば良いか、何をすれば良いかが大切だと思います。自分自身も考えさせられる内容でした。ありがとうございました。

★障がい者交流プラザと防災センターでの学習を子どもから聞いて、学ぶことがたくさんある体験をさせてもらえたと感じました。障がいのある方の大変さや災害の怖さを実際に経験することは学び考えることが多いと思います。これからは勉強やスポーツ以外に学校生活でこのような体験をさせていただければ嬉しいです。

★災害時、特に起こるであろうと思われる南海トラフ地震に備えるのが、重要だと思います。

ご家庭で人権問題について話をしていただけることが、お子様にとっても、学校から家庭へと学びをさらに深めていく大事な機会になると思います。ありがとうございました。



SDGs目標 3「すべての人に健康と福祉を」



SDGs目標 10「人や国の不平等をなくそう」



SDGs目標 11「住み続けられるまちづくりを」

